

平成30年12月20日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

| | |
|--------------------------|------------------------|
| 日時 | 平成30年12月20日(木) 午後3時00分 |
| 場所 | 教育委員会室 |
| 開会 | 午後3時00分 |
| 閉会 | 午後3時27分 |
| 出席委員 | |
| 教 育 長 | 加 藤 裕 之 |
| 委 員 | 阿 部 博 道 |
| 委 員 | 坂 根 慶 子 |
| 委 員 | 淺 松 三 平 |
| 委 員 | 白 石 祐 一 |
| 説明のために出席した職員 | |
| 教育委員会事務局次長 | 後 藤 隆 宏 |
| 教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱) | 宮 本 知 幸 |
| 学 務 課 長 | 西 村 克 己 |
| 指 導 室 長 | 横 山 圭 介 |
| すみだ教育研究所長 | 石 原 恵 美 |
| 地域教育支援課長 | 石 岡 克 己 |
| ひきふね図書館長 | 高 村 弘 晃 |

2 議題について

(1) 報告事項

第1 教育課題の進捗状況について(資料1)

3 会議の概要について

教育長 それでは、本日の教育委員会を開会します。本日の会議録署名人は、浅松委員

をお願いします。

報告事項第1・・・資料P1～4

「教育課題の進捗状況について」、庶務課長、指導室長、すみだ教育研究所長が資料のとおり説明する。

庶務課長（学校校舎等の改築・改修事業について説明）

教育長 ただいまの説明について、何かご質疑はありますか。

（質疑なし）

指導室長（新学習指導要領への対応について説明）

教育長 ただいまの説明について、ご質疑はありますか。

浅松委員 ここには書いてありませんが、錦糸中校長から、英語村への訪問で子どもたちがとてもいきいきと体験できたと聞きました。校長自身もそれについて評価していました。ほかの学校からそういった報告はありますか。

指導室長 錦糸中学校からは、大変意欲的に活動できて、中学生があつた環境であつたので積極的に関わるとは思わなかったと、本当に効果が高いという報告を受けています。今後行う学校もあります。

浅松委員 年度内に全部終わるのですか。

指導室長 年度内に全ての学校が終わります。本年度が始まりですので、各学校からきちんと報告を求めたいと思います。

教育長 ほかにありますか。

白石委員 外国語研修会はどこで行われましたか。

指導室長 横川小学校にある研修室で、各学校の外国語教育の担当者を集めて行われました。

坂根委員 外国語教育研修会の「読むこと」、「書くこと」に関するアクティビティーの紹介ですが、教科になってどういう点が変わりましたか。特徴があつたら教えてください。

指導室長 教科「外国語」で新たに入れていく内容なので、会話する言葉や読むことと書くことについて取り扱っております。細かい研修内容につきましては、後で改めてご報告します。

坂根委員 今までと変わった特徴的なことでよいです。私が今まで何回か行ったのは、

昨年度や一昨年度だと思えますので。急ぎではなくて結構です。

指導室長 今回の研修では、「We Can!」という文部科学省作成の教材を使っています。特に、書くことが本格的に導入されており、小学校の発達段階に応じています。小学校5年段階では、自分の好きなものは何かというような問いに対して、単語と短文で答えるという書き込みのもの、6年生の後半段階では、小学校生活の思い出、マイ・ベスト・メモリー、中学校の図を見ながら中学校ではどのようなことをするのだろうということを簡単な英文で書く、そういった活動を入れております。「We Can!」は、今後行われていく「書く活動」の理解と、それを実際に子どもと同様にやってみるという書き込み型の教材になっており、そのような教材を使いながら研修を行っております。

坂根委員 扱いが難しいとか、これなら理解できるといった、今までの研修との違いに対する反応はありましたか。

指導室長 事後アンケートが手元にありませんので、また次回以降に報告します。

坂根委員 わかりました。

すみだ教育研究所長 （学力向上新3か年計画の実施について及び幼保小中一貫教育推進計画の推進について説明）

教育長 まずは学力向上新3か年計画の実施について、何かご質疑はありますか。

坂根委員 学力向上推進会議、11月20日が第1回で、第2回、第3回の予定はいつですか。

すみだ教育研究所長 2回目は2月21日に予定しております。会議は2回までとなります。

浅松委員 放課後の補習や補充教室の実態ですが、中学なら、それぞれ授業の取りこぼしがある生徒を残して、それぞれの習熟度に合ったものをやるのでしょうか。例えばプリントなら教科で工夫したものをやっているのか。あるいは、一斉に同じドリルをやっけて丸つけをする程度なのか、それとも質問形式なのか、いろいろ形はあると思います。放課後補習教室について何かヒアリング等がありますか。耳にしている情報があればお聞きしたいです。

すみだ教育研究所長 中学校の場合は、英検や定期考査前に集中して行う放課後補習教室が多く行われております。クラブ活動との兼ね合いも調整しながら、授業内容の理解が低い生徒を集めてそこを手厚くしていきたいと考えています。対象は一斉ということ

ではなく、中学生なら例えばD層下位やD層上位という、標準より少し下、その中でも上とか下というように、ターゲットを明確にする方向性としております。小学校に関しても一斉ではなく、主に授業内容の理解が低い子どもたちを集めてやっていると聞いております。

浅松委員 補充的な形で、授業の中ではどうしてもカバーできない部分へ時間を割き、さらに部活との兼ね合いでは開始時刻を含めて校長のやる気だと思いますが、学校によっては、今おっしゃったような形で前向きに変えていこうという校長もいるということですか。

すみだ教育研究所長 はい。

浅松委員 全体的にはなかなか十分ではない部分もありますか。

すみだ教育研究所長 まだ十分ではないところはありますが、実際の活動はそれを目指しています。

浅松委員 私も授業を見ましたが、そういう放課後の補習等について、やはり時間的にはまとまってとれるはずです。学校から家に帰った時の復習でも、やはり学校にいる間にどの程度できるかが大きいと思うので、私の方でも協力していきたいと思っています。

坂根委員 放課後教室について、意欲との関連ですが、自発的に喜んでやっているのかそうではないのかによって、随分効果が違うと思います。どういう児童・生徒が対象でしょうか。

すみだ教育研究所長 募集する段階で、希望制と指名制があり、その併用パターンと、どちらかをとっているパターンになります。当然ながら、子どもがいきいきとして、行くのが楽しみで仕方がないというのが理想です。現実はどうでもない子ども若干いるとは思いますが、そこを前向きにするための工夫をしております。具体的には、その子に合った学習内容を提供し、子どもたちの意欲をさらに高めるよう支援しながら行っています。

坂根委員 現場の声を聞きますと、先ほどの部活との関係のこともありますが、放課後教室があるために、学校に行くのが嫌になったという事例も見受けられるそうです。自発的に本人が楽しいと思って行くのなら効果がありますが、そこを考えなければいけないとは思いますが。

すみだ教育研究所統括指導主事 放課後学習が嫌だと思って足が向かないような傾向があることについては、そういう思いをしっかりと子どもに対して話し、また、できた時にしっかりと褒めてあげないといけないと思います。ただ単に放課後にやったというこ

とではなく、その子の成果や成就感といったことについて、学校に対して指導・支援をしていきたいと思えます。

阿部委員 海外派遣のところで来年の2月、3月に一次審査、二次審査と書いてあります。子どもたちが目指して励みになると思えますが、どうやって派遣する子どもたちを選んでいるのか教えていただけますか。

指導室長 まず生徒向けの説明会、保護者向けの説明会を行います。次に、なぜ志望したのか、外国語活動をこれからどのように生かせるのかというような、小作文を含めた応募用紙を提出してもらいます。各学校から上がったその書類をもとに、私どもで一次審査をします。一次審査を通った全ての子どもたちに2通りの面接を行います。高度な英語能力を求めているわけではありませんが、物怖じせず会話できる能力があるかを審査する、英語を使った面接を含みます。その上で各学校男女1名ずつ選抜しています。

阿部委員 学校推薦はなく、すべて本人の自由意思ということですか。

指導室長 教師による選抜という形はとりたくないの、一次審査の段階から事務局で行っています。ただ、ぜひあなたはやってごらんというような働きかけはしています。

教育長 では、幼保小中一貫教育推進計画について、何かご質疑はありますか。

坂根委員 5歳児が小学校の生活を体験（ランドセル体験・学校探検）について以前も伺いましたが、例えば保育園児は保護者の仕事の関係上なかなか体験ができないのではないかと思います、その辺はいかがでしょうか。幼保小中といっても、保育園と幼稚園、また保護者の働き方や家庭状況によって違うと思えます。

すみだ教育研究所統括指導主事 これは5歳児が小学校へ行き、在校生に案内をしてもらったり、席に座ったりするという、子どもたちをターゲットにした取組です。この5歳児は幼稚園であったり、認定こども園であったり、保育園の子どもたちが行きます。保護者の方に対しては、小学校のスタートブックを5歳児の初めの段階で配付はしていますが、これは保護者の方への事業ではありません。

坂根委員 それは存じています。ただ、幼保小中と言う場合に、保育園、小学校、中学校の先生がいろいろ話し合う機会も難しいのではないかとということと、ここの5歳児の中で、幼稚園や認定こども園と比べると保育園はいろんな意味で参加することが難しいのではないかとということです。

すみだ教育研究所長 ランドセル・学校探検にはこども園と保育園に差はなく、保育園もこども園も幼稚園も参加しています。それから、小学校、幼稚園、保育園の先生方の

交流というところでも、保育参観をする計画を打ち出しています。幼稚園、保育園の保育参観に小学校や中学校の先生が、または保育園に幼稚園、幼稚園に保育士や先生が行くというようになっていきます。満遍なく異校種の教員同士が交流をしている状況です。

坂根委員 私が申し上げたいのは、保育園の先生が仕事を終えてから、幼稚園の先生や小・中学校の先生と会議をするような時間を取るの、なかなか難しいのではないかとということです。

すみだ教育研究所統括指導主事 先ほどの報告の中で、連絡協議会というのが2点目にあります。ブロックの中で幼保小中の教員等が年に2回集まる機会のうちの2回目です。どうしても午後の早い時間になっていますので、保育園の方々は勤務時間の都合で、保育士に関してはなかなか難しいのが現状です。実際に来ているのは園長先生が多く、あとは分担をしてやりくりをした中で保育士が1人、2人来られるという状況です。ですので、保育園の方々は協議の内容をその後を持ち帰り、その協議会の内容を知るといふかたちになっています。

坂根委員 そうしますと、保育園は、幼稚園、小学校、中学校とは先生の参加率が変わっていると考えてよろしいでしょうか。

すみだ教育研究所統括指導主事 一般教員の参加率というところでは、保育園の方々は低めになっています。

教育長 以上で、本日の議事はすべて終了しましたが、そのほかに、委員のみなさん又は事務局から何かありますか。では、これで教育委員会を閉会します。